

デジタル台はかり 据付要領書

形式：PL-MLC9

大和製衡株式会社

VER3.0

1. 開梱

1) 設置場所付近まで運搬してから、梱包を解いて下さい。

(注) 荷下ろし、および運搬時に強い衝撃を与えないで下さい。

また、台はかりをフォークリフト等で持ち上げる時は、必ずフォークが台はかり全体をすくうようにして下さい。

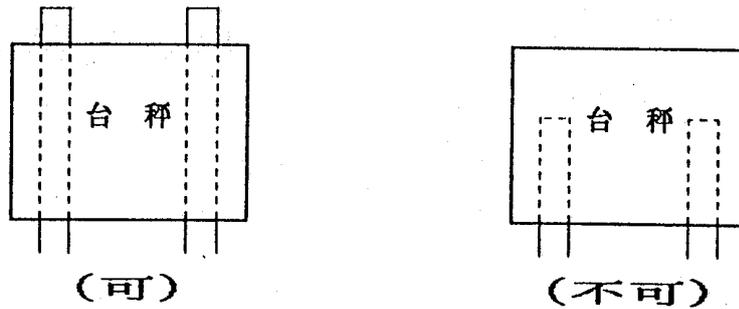


図1

2) 載台上板上面の赤いテープは、載台上板の取付方向を示しています。載台上板を再度取付時に赤いテープの位置を合わせて下さい。(図2参照)

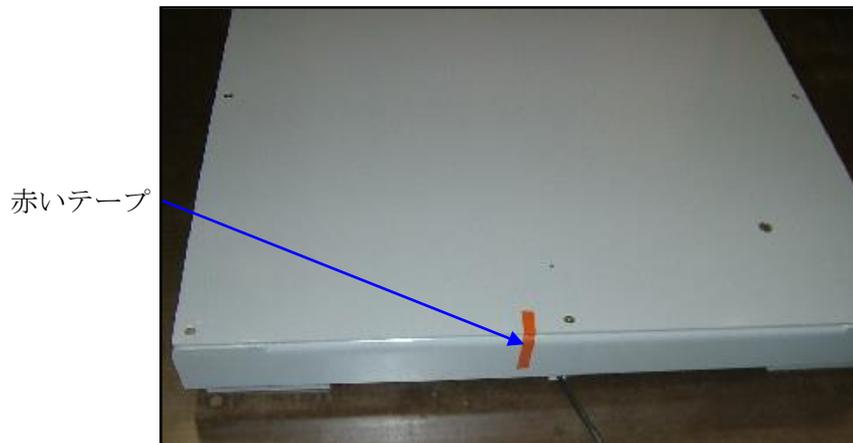


図2

- 3) 載台上板上面の皿ボルトを全て取り外して下さい。付属のアイボルトを載台上板に取り付け（2箇所）、ワイヤーロープを掛けて吊り上げ取り外して下さい。
（図3参照）



図3

- (注) 載台上板のアイボルト取り付け箇所は、有効ねじ部（ねじが切っている長さ）が短い為、**本体ごと吊り上げることはできません。**
- * 輸送時の機器損傷を防止するために設けた緩衝木材は据付の最終段階で取り外した方が安全ですので、次の「据付」の項にて説明します。

据付

- 4) 載台上板を外した際に使用したアイボルトを本体4箇所に取り付けて下さい。
(図4参照)

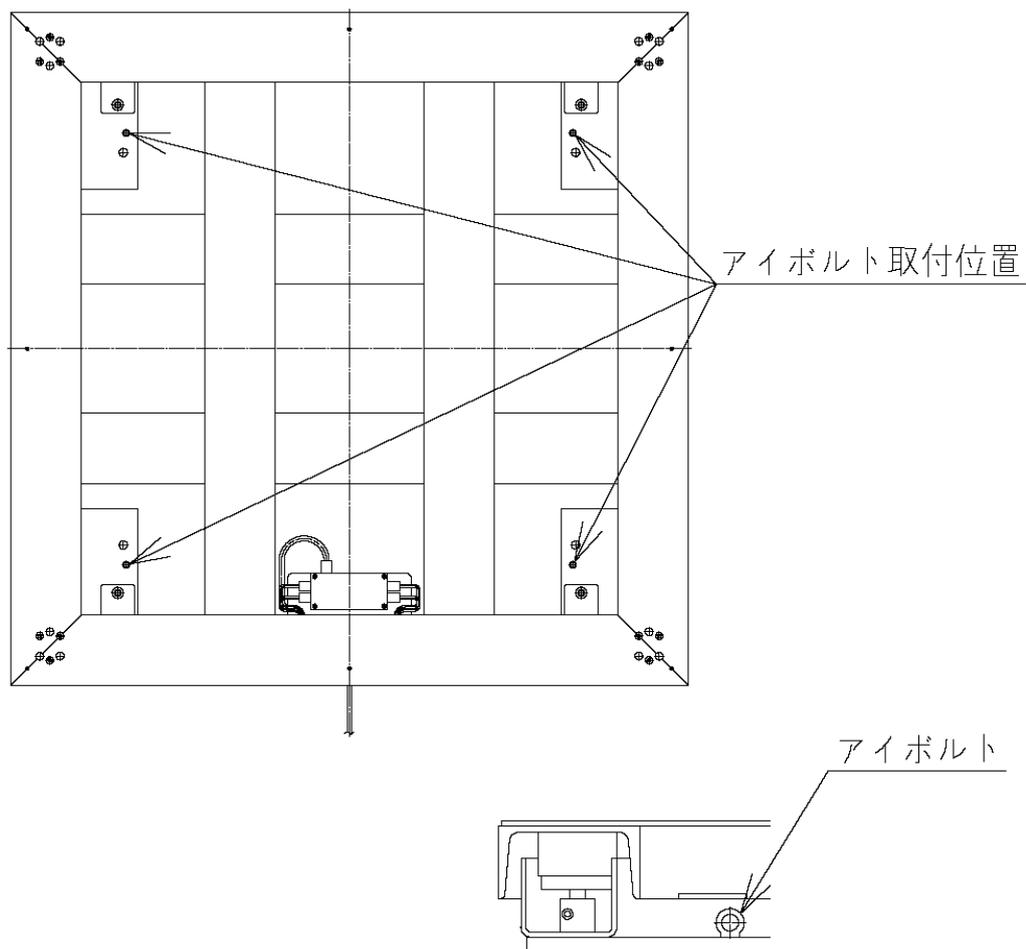


図4

5) アイボルトにワイヤーロープを掛けて吊り上げ、設置場所に置いて下さい。

アイボルトは移設時に必要です付属品と共に保管して下さい。

(図5参照)

(注) 据え付ける際に、指示計を設置する場所に対して本体の配線取出口の方向を合わせて下さい。

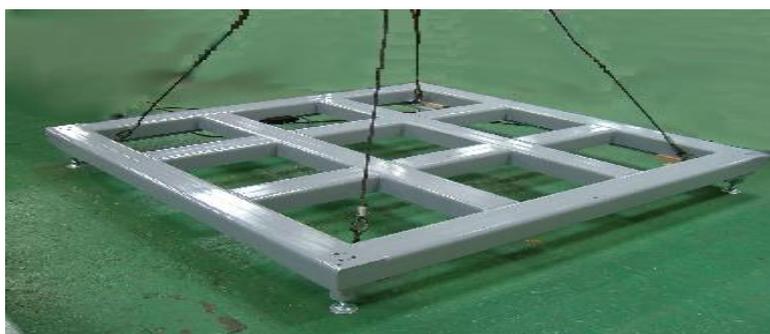
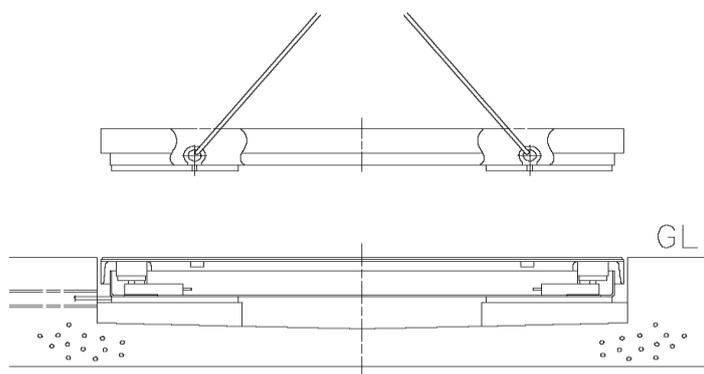


図5

(ア) 本体と基礎枠との隙間を均等 (約 10mm 程度) に調整します。(図5参照)

隙間 約10mm (四方にて均等に)

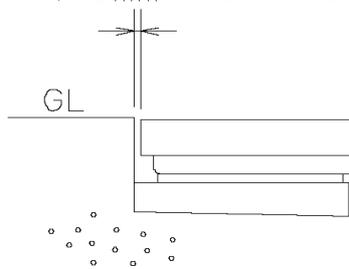


図6

(イ) 輸送時ロードセルに過負荷がかからない様に四隅に輸送用緩衝木材を取り付けて出荷しております。輸送用緩衝木材を取り除く要領は下記の通り行って下さい。

(図7～9参照)

尚、本体吊り上げ用のアイボルトは本作業において弊害となりますので取り外しておいて下さい。

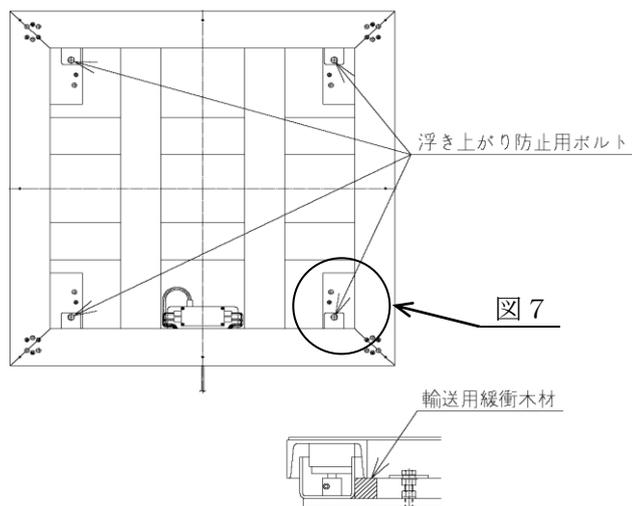


図7

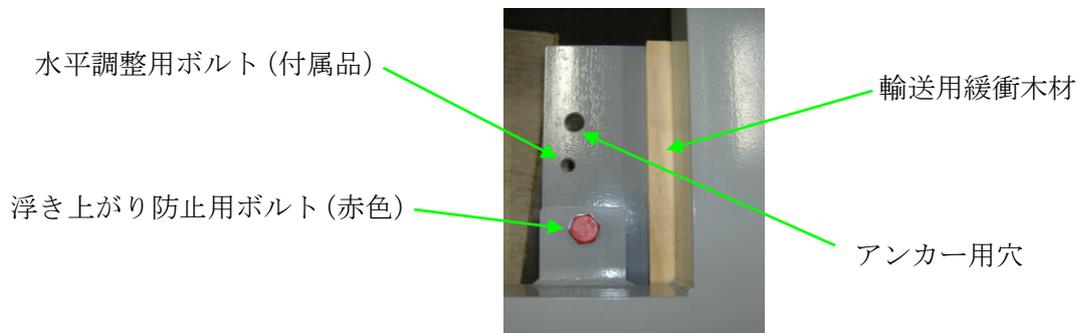


図8

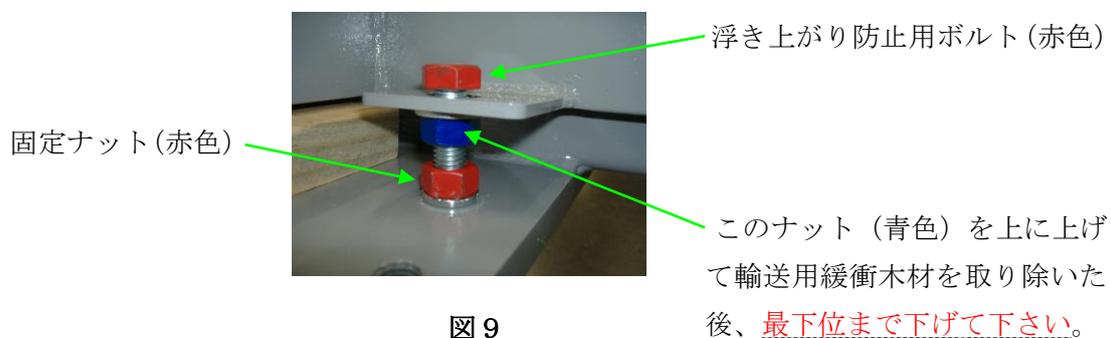


図9

注) 浮き上がり防止用ボルト (赤色) 及び固定ナット (赤色) は、絶対回さないよ

うにしてください。

(ウ) 輸送用緩衝木材を取り除いた後、浮き上がり防止用ボルトと板の隙間が1～2 mm である事を確認してください。(図10参照)

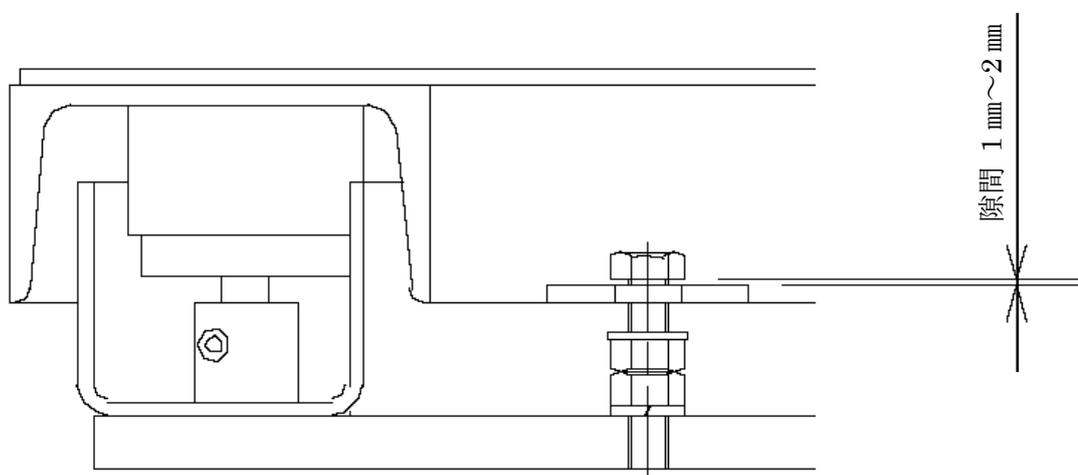


図10

(エ) 前項 4) で取り外したアイボルト取付穴を流用し付属の水平調整用六角ボルト (付属品) を取り付け、本体側面の水玉水平器を見ながら、水平調整用六角ボルトにて本体のレベル調整を行って下さい。水平調整後、付属のライナーを本体の底に挿入して下さい。(図 11 参照)

水玉水平器の気泡が○の中央にあれば良、外れていれば再調整が必要です。

(注) 本体がガタつきが無い事を確認して下さい。

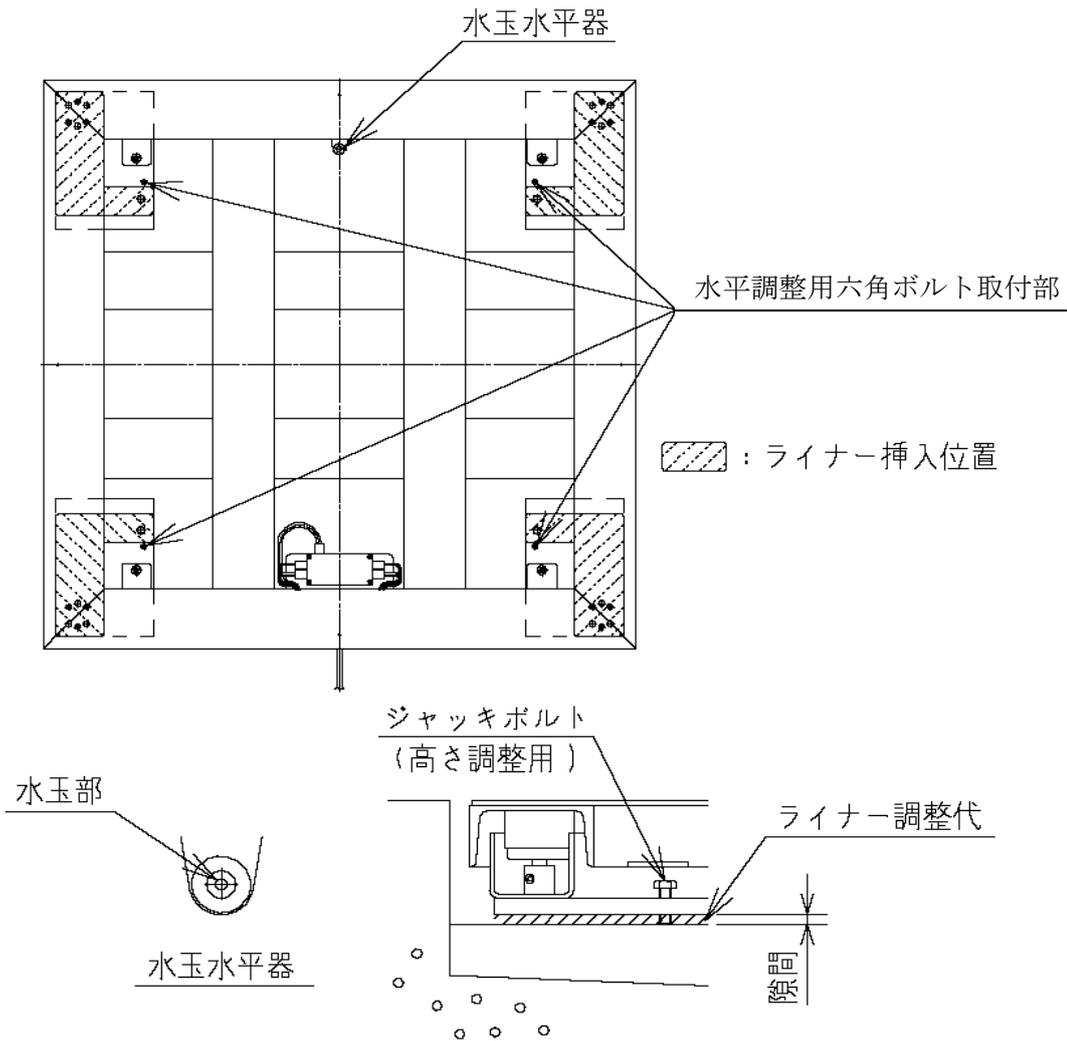


図 11

ライナーは付属品です。

板厚 1.0mm : 4 枚

板厚 2.0mm : 4 枚

板厚 3.2mm : 4 枚

計 12 枚を同梱しています。

レベル調整に利用してください。

(オ) 水平調整後、載台上板を取り付け、乗込面の段差 d が 0.5mm 未満になるように確認して下さい。(図 12 参照)

尚、乗込面の段差 d が 0.5mm 未満ではない場合は載台上板を取り外して再調整して下さい。

調整後、水平調整用六角ボルトは、必ず取り外して下さい。

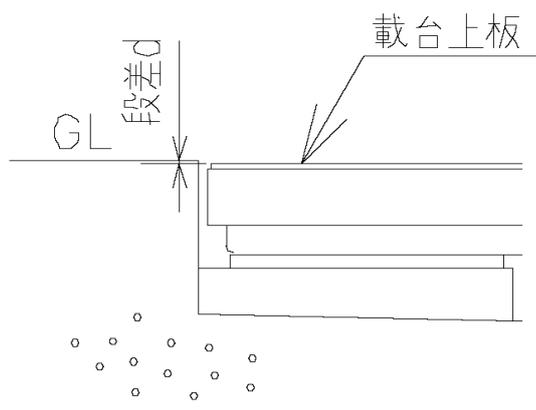
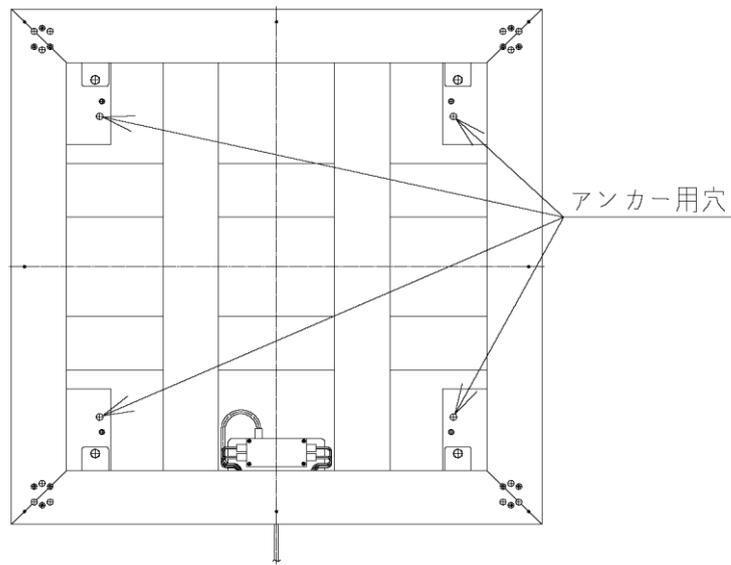


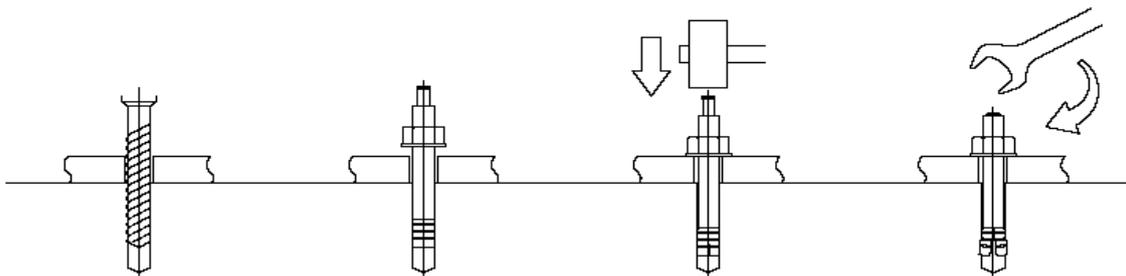
図 12

(カ) アンカーが必要な場合、本体フレーム内部のアンカー用穴を利用して、フレームをオールアンカーボルトで固定願います。

アンカー取り付け要領は下記の通り。



- ・アンカー用穴の位置に現物合わせで、ドリルで基礎に穴をあけ、付属のオールアンカーボルトを打ち込み本体を固定します。



1. 所定の径 ($\phi 12.7$) で穴あけ後、切粉を除去。
2. ナットを付け下穴に挿入する。
3. ハンマー等で打ち込む。
4. スパナ類を用いてナットの締付けを確認し完了。

- ※オールアンカーの穴あけ深さは、埋込み深さより外径分程度深めにあけて下さい。
- ※ナットをセットしてから、穴にアンカーを挿入し、ハンマーで打ち込んで下さい。
- ※芯棒は垂直に打ち込み、頂部に接するまで確実に打ち込んで下さい。

6) 載台上板の取り付け

- (ア) 載台上板はロードセルケーブルを基礎の配管内に配線終了後、取り付け願います。
- (イ) 載台上板を取り付ける前に、載台を軽く手で揺らして、振れ止めが接触していないか、確認して下さい。

もし揺れない場合は、どこか接触している可能性がありますので、下記のチェックポイントに従って点検して下さい。

(ウ) 載台上板上面を取り付ける時は、赤いテープの位置を合わせて下さい。

(図2参照)

載台上板を取り付け後、赤いテープを外して下さい。

《チェックポイント》

(a) 載台が片寄りして振れ止めが当たっていないか。

(b) ロードセルケーブルが載台に接触していないか。

(c) 浮き上がり防止用ボルトと板が接触していないか、確認して下さい。

* 上記のチェックポイントは、使用中計量誤差が生じた場合の確認にも適用できます。

(エ) 載台上板を取り付けた後、アイボルトを取り外し、皿ボルトを取り付けて下さい。アイボルトは移設等の際に使用しますので、付属品と共に保管して下さい。